

子どもの健康づくり連携事業〈専門医の派遣〉実践例

中学校④

〔専門医による講話〕

- 1 テーマ いのちの教育
- 2 対象 1、2学年
- 3 専門医 林 淑子 医師(産婦人科)
- 4 実施月 12月
- 5 内容(キーワード)
ライフプラン、月経妊娠のしくみ
不妊症、性被害、LGBTQ



評価(あてはまるものに○をつけ、理由を記入)

①健康課題の解決について

- 有効だった
有効でなかった

<その理由>

*生徒に事前アンケートをとった結果、LGBTQに関心を持つ生徒が多いことが分かり、関連資料を用意していただくなどニーズに合わせて準備していただいた。

②校内の組織づくりについて

- 有効だった
有効でなかった

<その理由>

*会場準備、生徒への事前指導など、担当者を中心に教職員で協力して実施できた。

③校外の関係機関等との連携について(派遣専門医を含む)

- 有効だった
有効でなかった

<その理由>

*事前アンケートの内容やその結果、当日の準備物品等について、事前に専門医と情報共有ができたため。

〔受講者の感想など〕

- 「人生の主役は自分、自分のために生きる」という言葉が心に残った。
- LGBTQの人を含めて「普通」があると感じた。
- 「女だから」「男だから」という言動はやめようと思った。
- 妊娠の事はほとんど女性に関わることだと思っていたが、実際はパートナーである男性にも重要な話だと感じた。



〔教科やその他の指導との関連性〕

- 保健体育の授業で、二次性徴や身体のしくみについて事前に指導していた。